

東亜大学総合人間・文化学部公開講座「千夜一夜」要旨

テーマ「文化の伝播： フランスとトルコ」

第15話 スポーツ文化の伝播： フランス・シャンパン ラグビーへの進化

石井 信輝 (スポーツ学研究室)

フランスはあらゆる文化の薫る国である。その中で、スポーツも芸術や食文化の陰に隠れがちではあるが、フランスにおける文化活動の一領域として、しっかりと認知されている。そのことは、この夏にアテネに戻って開催された近代オリンピックの創始者が、フランス人であるクーベルタンであったことから、容易に推察されよう。また、1984年制定された、「身体・スポーツ活動の組織と振興に関する法律」によって、スポーツが教育、国民統合、社会生活の重要な要素であることが、明記されている。また、同法の中でスポーツ活動の振興のために、国家が関連するスポーツ関連団体の協力を得ながら、積極的に関与していくことが約束されていることも考慮すると、スポーツ活動が生活や文化の中に溶け込んでいることが窺えよう。

ところで、ラグビー競技も南フランスを中心として盛んに行われている競技種目の一つである。1987年に行われた第一回のワールドカップにおいても準優勝を飾り、以降世界の強豪国の一角を占める実力を維持している。また、そのプレイスタイルはフランス特産のシャンパンの泡が吹き出すようにサポートプレイヤーが後

から後から湧き出てくる様子を形容して、「シャンパンラグビー」との異名を持ち、世界中の観衆を魅了しているほどである。本公開講座においては、イギリスから伝播したラグビー競技が、フランスに渡ってシャンパンラグビーへと進化し、一般社会に溶け込んでいった様子を、スポーツ振興に関する法整備、指導体制、および新しいコーチング方法の開発という観点から糸口として解き明かすこととした。具体的には、イギリスからフランスへ伝播したラグビーが、南フランスを中心として盛んに行われるようになった背景や、フランス流の指導方法の独自性についての解説等を行った。またそのことを通じて、フランスにおけるスポーツ文化を独自の視点から論じることとした。

(平成16年7月3日実施)

第16話 コーヒー文化の伝播： トルコのカフヴェから フランスのカフェへ

ヤマンラール水野美奈子

(文化文明史研究室)

現代人の嗜好品として欠かせないコーヒー、憩いの場としてのカフェの歴史はイスラーム世界に求められる。コーヒーやカフェなどの言葉も、アラビア語に起源を有する。イスラームの発祥の地であるメッカでは14世紀になると、コーヒーが夜の礼拝の眠気を遠ざける興奮剂的飲料として飲まれ始めた。

オスマン帝国の歴史家ペチェヴィー(ca.1574-1650)は、1555年にハーキムとシェムスと言う二人のアラブのコーヒー商人が、首都イスタンブールの商業地区として栄えていたタフタカレ